

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	天王寺区
学校名	五条小学校
学校長名	田中英治

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・五条小学校では、第6学年 162名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については国語科では7ポイント、算数科では14ポイント、理科では5ポイント、それぞれ平均正答率を上回っている。また無答率も全国平均と比べても低くなっている。これらの結果から、本校では多くの児童が学習内容を理解し、あきらめることなく課題解決に取り組んでいることが分かる。また学習指導要領の内容別に見ても、すべての教科・すべての項目で全国平均を上回っており、一つの項目に偏るのではなく、全項目についてバランスよく、学習内容が定着しているといえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

令和5年度の調査では「書くこと」で全国平均を下回り、昨年度は上回ってはいたものの他の項目よりはポイントが低い傾向があったが、今年度は上回ったのはもちろん他項目と比べても決して低くはない。これまでの結果から、自分の考えたことや思いを一定の条件を守りながら文章にするなど、「書くこと」に関する活動に力をいれた結果であると考えられる。

[算数]

昨年度に引き続き、すべての項目で全国平均よりも正答率は高く、しかもすべての項目で10ポイント以上上回っている。今後も基礎基本を大切にしながら自分の考えを表現する活動を多く取り入れるなどして学習内容の定着を図っていく。

[理科]

すべての項目で全国平均を上回っている。今後も観察や実験等、体験的な活動を取り入れながら科学的な見方や考え方を働かせることができると学習活動を意識的に取り組んでいく。

質問調査より

- 「自分にはいいところがありますか」の項目で最も肯定的に回答する児童の割合は全国平均を上回っているが、肯定的回答を含めると全国平均より若干低くなっている。また「将来の夢がありますか」の項目についても全国平均より低い。これは学齢が上がるに従って様々な現実を知ることで自己肯定感が下がったり、将来への見通しが持ちにくくなったりしている児童が多いと思われる。
- 「いじめは何があってもいけない」と考えている児童は約97%に達していて、日ごろのいじめ防止に向けた学習が成果をあげていると思われる。同時に友だち関係に満足していると回答する児童の割合も多い。ただし「学校が楽しいと思いますか」という項目については肯定的回答が全国平均を下回っている。これは本校児童は、家庭学習の時間が全国平均をはるかに上回っており、さらに他の設問では50%以上の児童が家庭学習において学校より難しい問題に取り組んでいるとの結果も出ており、学校での学習内容がすでに既習事項となってしまっていることで、授業への満足度が低くなっていることが原因の一つと考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

- 学力向上支援チーム事業等を活用するなどしてさらなる授業力の向上に努めていく。またここ数年間、『主体的・対話的で深い学びの実現をめざした国語科授業』を目指して研究を進めており、今後も児童が目的を持って話し合う過程で自分の考えを文章化したり、発表するための資料を作成したりするなかで、児童が主体的に学習に取り組めるような授業作りに努めていく。また算数科においても国語科で学んだことを生かしながら、課題を正確につかんだり、自分の考え方を発表したりして、児童が学習内容をより深く理解できるように授業内容の充実を図っていく。
- さらなる児童理解を図るため、職員間の情報共有を進めていく。「心の天気」の入力を推進することで視覚的に児童の思いを知るための体制を整えることや、児童の様子を共通理解する場の充実を図っていく。また夢授業や様々な出前授業を活用しながらキャリア教育も進めていく。



【 全体の概要 】

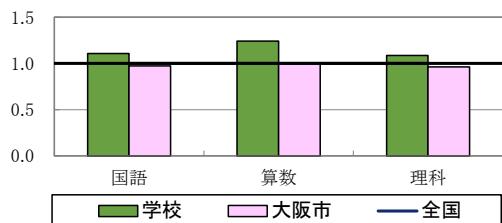
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	74	72	62
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

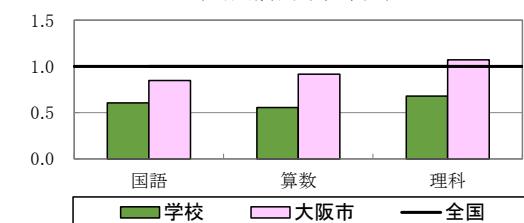
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	2.0	2.0	1.9
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



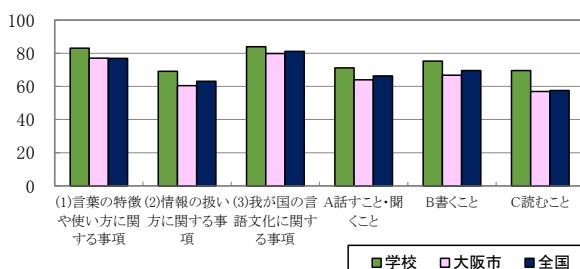
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	83.0	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	69.1	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	84.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	71.2	64.0	66.3
B 書くこと	3	75.3	66.7	69.5
C 読むこと	4	69.6	56.9	57.5

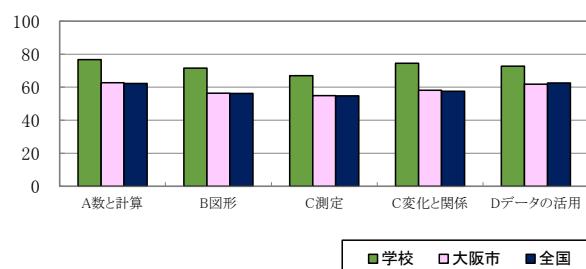
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	76.7	62.7	62.3
B 図形	4	71.6	56.4	56.2
C 測定	2	67.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	74.5	58.2	57.5
D データの活用	5	72.7	61.9	62.6

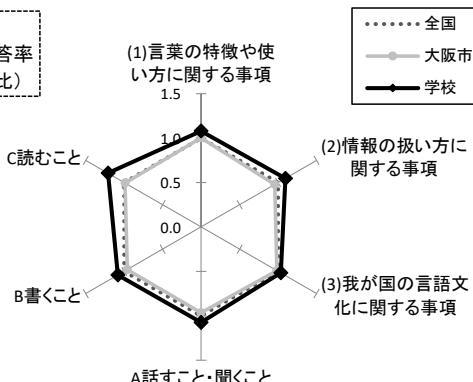
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



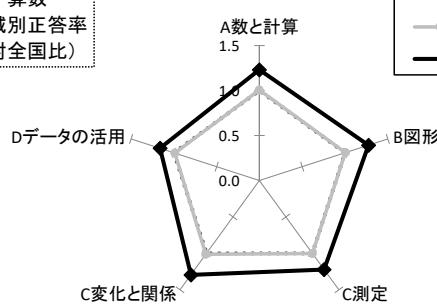
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

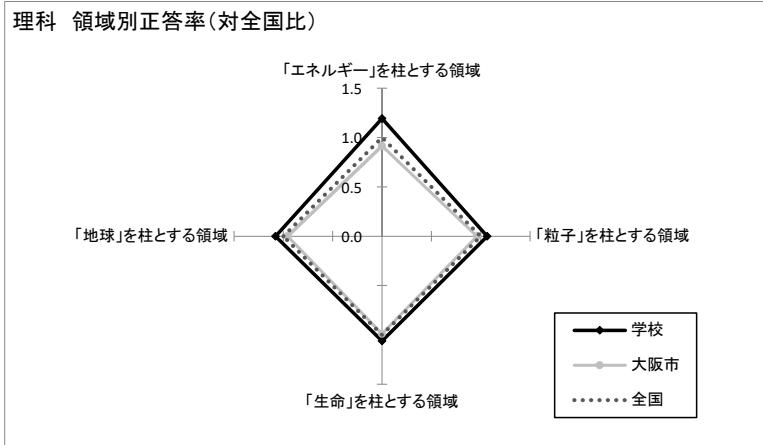
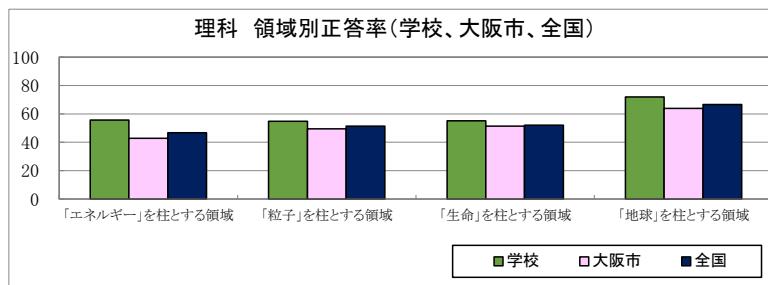


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	55.7	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	54.8	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	55.2	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	72.0	63.8



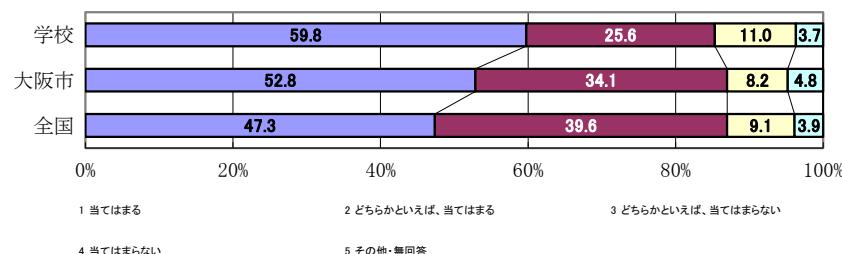
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

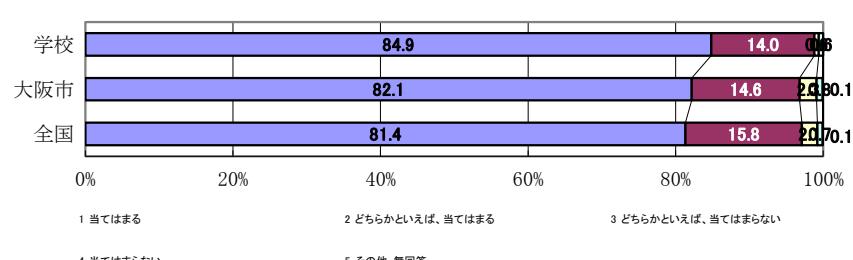
5

自分には、よいところがあると思いますか



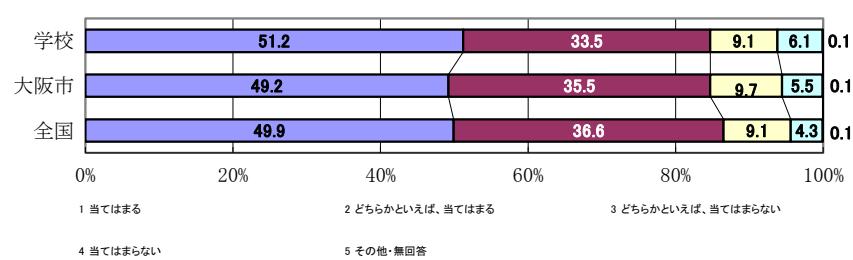
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



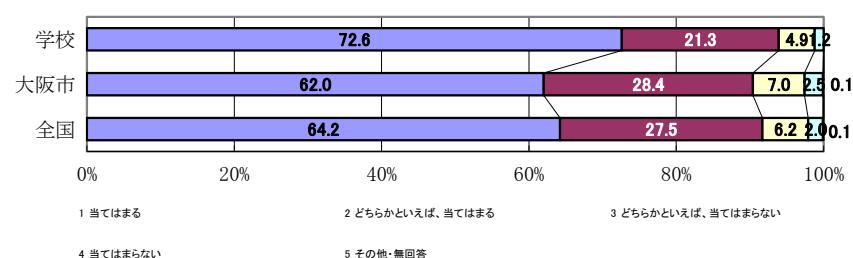
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



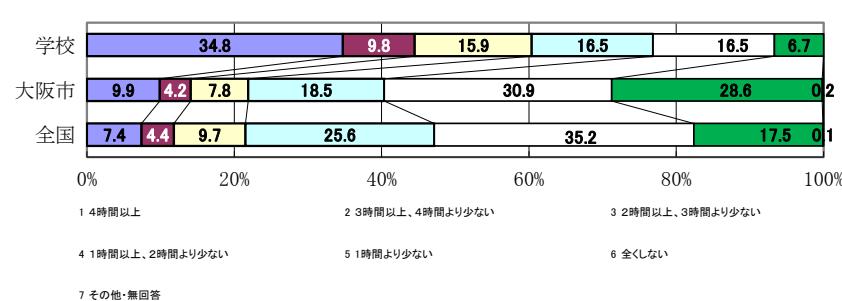
14

友達関係に満足していますか



19

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



学校質問より

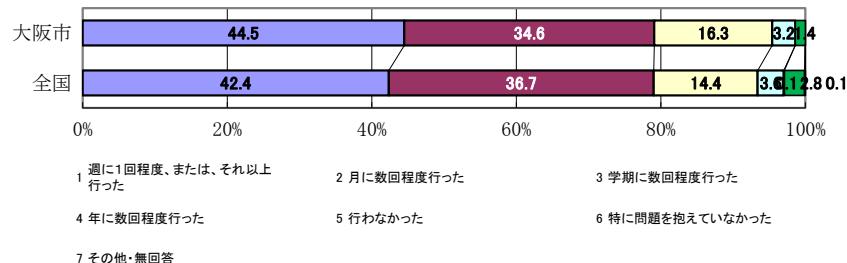
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

11

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

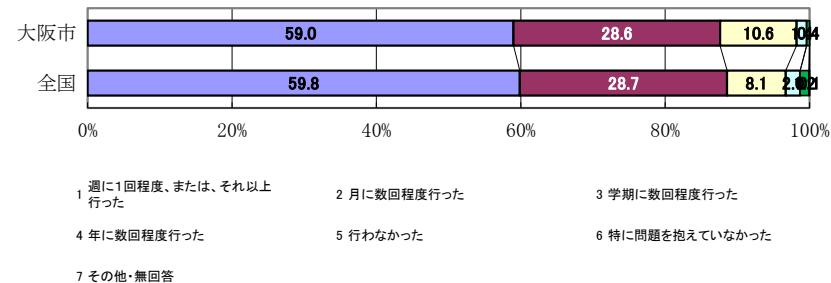
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

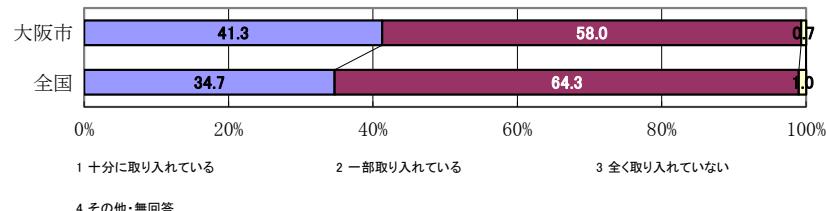
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

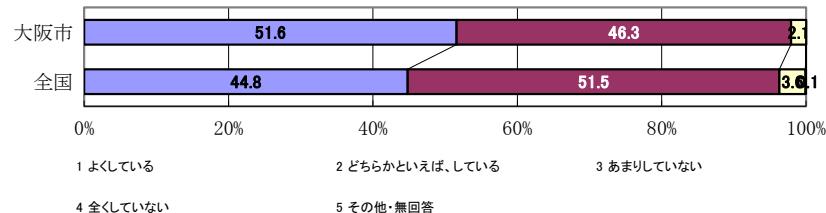
学校 「十分に取り入れている」を選択



17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択

